2023年９月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年２月14日

上場会社名	太洋物産株式会社		上場取引所　東
コード番号	9941	ＵＲＬ　http://www.taiyo-bussan.co.jp	
代表者	（役職名）代表取締役社長	（氏名）松島　伸介	
問合せ先責任者	（役職名）総務部　ジェネラルマネージャー	（氏名）井坂　勇登	ＴＥＬ　03-5946-8000
四半期報告書提出予定日	2023年２月14日	配当支払開始予定日　―	

四半期決算補足説明資料作成の有無：　無

四半期決算説明会開催の有無　　　　：　無

（百万円未満切捨て）

１．2023年９月期第１四半期の業績（2022年10月１日～2022年12月31日）

（１）経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年９月期第１四半期	4,941	△5.0	19	△88.6	△34	―	△34	―
2022年９月期第１四半期	5,202	25.4	175	―	162	―	136	―

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年９月期第１四半期	△17.81	―
2022年９月期第１四半期	85.07	―

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年９月期第１四半期	7,735	511	6.4	259.33
2022年９月期	8,235	564	6.7	287.47

（参考）自己資本　　2023年９月期第１四半期　　501 百万円　　2022年９月期　　555 百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年９月期	0.00	0.00	―	0.00	0.00
2023年９月期	0.00				
2023年９月期（予想）		0.00	―	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

３．2023年９月期の業績予想（2022年10月１日～2023年９月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,000	4.5	―	―	―	―	―	―	―

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　有

当社は年次での業務管理を行っておりますので、第１四半期（累計）の業績予想の記載を省略しております。詳細は、添付資料P.２「１.当四半期決算に関する定性的情報」をご覧下さい。

営業利益、経常利益、当期純利益については、「―」となっておりますが、現時点での合理的な予想が困難であるため、ともに「未定」となっております。詳細は、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧下さい。

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年９月期１Ｑ	1,934,019 株	2022年９月期	1,934,019 株
②　期末自己株式数	2023年９月期１Ｑ	753 株	2022年９月期	753 株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2023年９月期１Ｑ	1,933,266 株	2022年９月期１Ｑ	1,599,666 株

※　四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

　本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ．２「１．当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 2
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 3
（１）四半期貸借対照表 …… 3
（２）四半期損益計算書 …… 4
第１四半期累計期間 …… 4
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 5
（継続企業の前提に関する注記） …… 5
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 5
（追加情報） …… 5
（セグメント情報等） …… 5

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期累計期間における我が国の経済は、2020年１月頃から顕著になった新型コロナウイルス感染症が長期化する中で、ワクチン接種の進展や各種政策の効果もあり、経済活動が再開され、徐々に持ち直しの動きがみられます。しかしながら、2022年２月から始まったロシアのウクライナ侵攻に伴う資源価格の上昇や、急激な円安等による市場の混乱が続いており、経済活動について先行きが見えない状況の中、当第１四半期累計期間末を迎えました。

このような環境の下、当社の主要事業である食肉関連においては、未だ外食産業を中心とした需要は回復に至っておりませんが、新規アイテムの成約や、利益率の高い商材の販売を増加させることにより、売上高・取扱数量共に増加となりました。次に農産品では、新規契約の取引が進み、売上高・取扱数量共に増加となりました。

しかしながら、中国関連の取引においては、コロナ感染の影響により取引が進まなかったため、売上高・取扱数量共に減少したほか、輸入豚肉に関しては、国内在庫が飽和状態となり、前事業年度比で売上高・取扱数量共に減少となりました。

この結果、当第１四半期累計期間における売上高は49億41百万円(前年同四半期累計期間比 5.0％減)、営業利益19百万円(前年同四半期累計期間比88.6％減)、経常損失34百万円(前年同四半期累計期間は経常利益１億62百万円)、四半期純損失34百万円(前年同四半期累計期間は四半期純利益１億36百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(食料部)

鶏肉については、輸入鶏肉の縮小の一貫として、販売を強化したことにより、売上高・取扱数量ともに増加となりました。牛肉は外食産業への販売をメインとしており厳しい状況がつづいておりますが新規アイテムの成約等もあり、売上高・取扱数量ともに増加いたしました。タイ産加工食品は、産地価格の高騰や現地生産工場のコロナ禍での操業停止等の影響も解除されつつあり、利益率の高い商材の販売が成約でき、売上高は増加いたしました。

この結果、当第１四半期累計期間の売上高は、27億47百万円(前年同四半期累計期間比9.3％増)となりました。

(営業開拓部)

農産品は、大豆等の産地価格の高騰や産地国の輸出規制の影響もありましたが、新規契約の取引が順調に進みました。一方で2020年９月期より取引を始めた中国のネット通販事業者向け商材の販売は、中国市場の潜在的需要の高さを背景に取扱商品を着実に増やしておりますが、中国国内におけるコロナ政策の大きな転換に伴う一時的な混乱が影響したことから取引量が減少しました。

この結果、当第１四半期累計期間の売上高は、16億94百万円(前年同四半期累計期間比20.0％減)となりました。

(生活産業部)

輸入豚肉に関しましては、前事業年度におきまして、前倒しで入船引渡しが進み、市場の在庫過剰感に加え為替相場の急激な変動により需要が様子見となった結果、売上高・取扱数量ともに減少となりました。

この結果、当第１四半期累計期間の売上高は、４億99百万円(前年同四半期累計期間比12.5％減)となりました。

（２）財政状態に関する説明

当第１四半期累計期間末の資産につきましては、現金預金は増加したものの、売上債権及び商品の減少等に伴い、前事業年度末に比べ５億円減少し、77億35百万円となりました。

負債につきましては、主に仕入債務の減少により前事業年度末に比べ４億47百万円減少し、72億23百万円となりました。

純資産につきましては、四半期純損失の計上等により前事業年度末に比べ52百万円減少し、５億11百万円となりました。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2022年10月頃からの為替相場の急激な変動により、当第１四半期累計期間において為替差損39,781千円を計上しております。なお、今般の日本銀行の総裁人事報道でも数円単位の為替の変動があることから、今後も為替相場の急激な変動が予想され、かつ影響額の合理的な算定が困難であると考えております。

また、当社の既存事業であった鶏肉の販売は、国内産鶏肉については、鳥インフルエンザの影響により、取引量が減少しており、現時点で改善の目途が立っておりません。

加えて、輸入鶏肉につきましては、資金回転率、利益率の改善を目的として今後取引規模を縮小することとしておりますが、更に一時的に赤字を計上する可能性があります。

以上のことから、営業利益、経常利益、当期純利益については、減少することを想定しておりますが、現時点では合理的な予想が困難であるため、ともに未定とすることと致しました。

なお、売上高につきましては、一時的な売上の縮小が生じた場合でも、他のアイテム等でのカバーができることと考えていることから、前回発表予想を据え置くこととしております。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (2022年９月30日)	当第１四半期会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	320,126	1,417,651
受取手形及び売掛金	4,398,704	3,604,316
商品	2,592,884	1,583,176
その他	394,181	601,448
流動資産合計	7,705,896	7,206,592
固定資産		
有形固定資産	228,905	227,046
無形固定資産	2,859	2,859
投資その他の資産	298,151	298,530
固定資産合計	529,916	528,436
資産合計	8,235,813	7,735,029
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,154,025	754,056
短期借入金	5,949,610	5,926,113
未払費用	345,632	266,340
その他	74,808	139,693
流動負債合計	7,524,077	7,086,203
固定負債		
退職給付引当金	107,875	102,339
その他	39,161	34,720
固定負債合計	147,036	137,059
負債合計	7,671,113	7,223,262
純資産の部		
株主資本		
資本金	257,792	257,792
資本剰余金	157,792	157,792
利益剰余金	130,455	96,006
自己株式	△969	△969
株主資本合計	545,071	510,622
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	10,699	△9,261
評価・換算差額等合計	10,699	△9,261
新株予約権	8,927	10,405
純資産合計	564,699	511,766
負債純資産合計	8,235,813	7,735,029

（２）四半期損益計算書

（第１四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第１四半期累計期間 （自　2021年10月１日 至　2021年12月31日）	当第１四半期累計期間 （自　2022年10月１日 至　2022年12月31日）
売上高	5,202,740	4,941,735
売上原価	4,904,659	4,811,878
売上総利益	298,080	129,856
販売費及び一般管理費	122,198	109,945
営業利益	175,882	19,910
営業外収益		
為替差益	858	－
受取賃貸料	2,433	2,433
助成金収入	958	－
その他	246	186
営業外収益合計	4,497	2,620
営業外費用		
支払利息	12,221	14,620
為替差損	－	39,781
その他	5,817	2,224
営業外費用合計	18,039	56,626
経常利益又は経常損失（△）	162,340	△34,095
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失（△）	162,340	△34,095
法人税、住民税及び事業税	25,886	72
法人税等調整額	363	281
法人税等合計	26,249	353
四半期純利益又は四半期純損失（△）	136,090	△34,448

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りについて）

前事業年度の有価証券報告書の追加情報に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する内容について重要な変更はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第１四半期累計期間（自2021年10月１日　至2021年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額（注）１	四半期損益計算書計上額（注）２
	食料部	営業開拓部	生活産業部	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,512,353	2,118,841	571,544	5,202,740	－	5,202,740
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－
計	2,512,353	2,118,841	571,544	5,202,740	－	5,202,740
セグメント利益又は損失（△）	188,807	29,285	7,491	225,584	△49,702	175,882

(注)１．セグメント利益又は損失(△)の調整額△49,702千円は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
２．セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当第１四半期累計期間（自2022年10月１日　至2022年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額（注）１	四半期損益計算書計上額（注）２
	食料部	営業開拓部	生活産業部	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,747,028	1,694,755	499,952	4,941,735	－	4,941,735
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－
計	2,747,028	1,694,755	499,952	4,941,735	－	4,941,735
セグメント利益又は損失（△）	49,333	3,921	3,406	56,661	△36,750	19,910

(注)１．セグメント利益又は損失(△)の調整額△36,750千円は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
２．セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。